

マヤズム概観

200 年以上続いて来たホメオパシーの世界では、不思議なことがいくつかあります。マヤズム理論の変遷もその一つです。

ハーネマンがマヤズムという概念を見出し対処しようとしたマヤズムと、現代ホメオパシーで扱うマヤズムとは異なるものです。

1. ハーネマン（1755～1843 年）のマヤズム（Miasma）

ホメオパシーの創始者ハーネマンは、ホメオパシーを実践し始めてしばらくのちに『慢性病論』で、慢性病への対処法を世に問いました。（1835 年）オルガノン第 5 版・6 版ではその成果を織り込んで述べています。（オルガノン第 6 版：1842 年）

ハーネマンは、オルガノン § 72～82 において、病気を明確に区分して、その対処法の違いを述べています。そして、慢性病の問題と対処法は、オルガノン § 103～104 で軽く触れ、別に『慢性病論』に詳しく記しています。

ハーネマンが、マヤズムについて述べていることをまとめると次のようになります。

1. 人間の病気には 2 種類ある。急性病と慢性病である。
2. 急性病は、いくつか種類があるがいずれも短期間のものであり、「始まり～ピーク～終わり」というハッキリしたプロセスがある。最終的に起きることは、治るか死ぬかのいずれかである。
3. 急性病の治療では、その症状はシンプルでハッキリしているため、レメディを容易に見つけることが出来、ホメオパシーによる早期の治癒が可能である。
4. 一方、慢性病は、急性病のように簡単ではない。
5. 何故なら、慢性病の土壌として「慢性マヤズム」が存在し、一筋縄では対処できないからである。
6. 慢性マヤズムは、世代を越えて受け継がれてきた「病の素因」のような根深いものであり、それは生まれてから死ぬまで人を苦しめる。
7. 慢性病は、ハッキリした自覚が出来ないうちに、次第に人の健康を蝕んで行く。放置していて自然に治ることはなく、気がついた時は、重篤になっている。
8. 慢性病に対しては特別な対処法（マヤズム治療）が必要である。
9. 慢性マヤズム治療の対象（マヤズム）は、3 つある。
 - 1) Syphilis(シフィリス)=梅毒マヤズム（性病）
 - 2) Sycosis（サイコシス）=淋病マヤズム（性病）
 - 3) Psora（ソーラ）=疥癬マヤズム（皮膚病）※これ以外に医原病がある。これも慢性病と呼ぶべき性質の悪いものである。
10. いずれも接触感染に関係する病的エネルギーであるが、最も重要なマヤズムは Psora（ソーラ）であり、これに対する特別なレメディを使わないと慢性病はどこまでも進

行して行く。

11. その特別なレメディを「抗 Psora（ソーラ）レメディ」と言う。
12. 仮に、患者がすでに Syphilis や Sycosis マヤズムに感染している際は、まずは、最初にそこから治療する必要がある。その際に利用するレメディは、主として、Merc.（抗 Syphilis 梅毒レメディ）と Thuj.（抗 Sycosis 淋病レメディ）である。
13. その治療後に、Psora マヤズムの治療が必要である。それには「抗 Psora レメディ」で対処する。
14. 適切な抗 Psora レメディが投与された時、発熱を伴う一時的悪化が起きる。（真の急性病）その時に限り、慢性マヤズムによる病気の進行を止めるか、または休眠状態にすることが出来る。これが慢性病の治癒である。

<参考> ジュリアン・カーライアン〜「ホメオパシーの哲学」第7章より

ホメオパシー療法で、効果を上げたかに見えた人が、永続的に症状が改善しないことがわかった。彼はその原因を探るため、12年の歳月を費やし、ついにその答えを得た。それが「マヤズム理論」（慢性病論）である。

慢性病の背後には、病気の基盤になる3つの根があるという理論である。

1. Psora（乾癬） 2. Sycosis（淋病） 3. Syphilis（梅毒）

3つとも、急性的な接触感染症がある。

Psora＝痒みのある皮膚湿疹

Sycosis＝コンジロームを伴う尿道分泌物

Syphilis＝生殖器の感染性潰瘍

ハーネマンによれば、これらの急性症状を少なくとも1つ以上抑圧した病歴がある時、ホメオパシー療法をしても回復し切れないことに気づいた。

そして彼は、単純にこれらの症状を抑圧したこと以上にこれらには意味があると考えた。急性症状を抑圧することで、根底に眠る休止状態の3つの病気のパターンを呼び覚ます。これが多くの医学的には異なって見える慢性病として現れることになるのである。

つまり、これらの3つの病気（マヤズム）は、心身の機能や構造を乱す様々な慢性疾患を引き起こすとの結論を得た。

特に、この中で Psora を抑制したことで、最も有害な病気が起きると考え、これこそが、すべての病気の母胎であると結論した。これらマヤズムは厄介なことにその人一代だけでは終わらず、世代から世代へと引き継がれて行くのである。

この根深い Psora マヤズムに対応するには、その人の全体像を見極めた上で抗 Psora レメディを使う必要があるとしている。

2. 現代ホメオパシーにおけるマヤズム (Miasma)

クラシカルホメオパシーの目的は、「シミリマムレメディ (最類似レメディ)」を投与して、慢性病に苦しんでいるクライアントを健康な状態に導くことです。

現代では、その一手段として「マヤズム傾向」を利用します。

一見すると違うように見えますが、この「シミリマムレメディ」とハーネマンが記した「抗 Psora (ソーラ) レメディ」の目的は、同じです。慢性病を癒すことです。

いずれも「個人化」が出来ないと、このレメディを見つけることが出来ません。注意深い適切なケーステイキングによってのみ、クライアントにとって、一番良いレメディが見つけられるのです。

現代ホメオパシーでは、マヤズムを「エネルギー傾向」としてとらえます。

レメディごとにそれぞれマヤズム傾向があるので、最適なレメディを探す「地図」として利用しています。

例えば、あるクライアントの病理レベルが深く、しかも破壊的で悲観的な生き方・考えで生きているとしたら、Syphilis (シフィリス) 傾向のエネルギーを持っていると考えます。当然ながらレメディも同じ傾向を持ったもの (例えば、Merc.や Lach.等) から選ぶことになります。

レメディ選びには、もちろん全体像の類似性が最優先ですが、その中でも、Syphilis 傾向の強いレメディを選ぶとより正確になる可能性があります。

現代におけるホメオパシーの 5 大マヤズムと疾患・症状とエネルギー傾向

PSORA	痒みのある皮膚湿疹／欠乏・不足・機能低下・希望
SYCOSIS	イボ、良性腫瘍、尿道分泌物／過剰・充溢・機能亢進・弱さを隠蔽
TUB	結核疾患・呼吸器疾患／活動過多・窒息感・変化への希求
CANCER	悪性腫瘍・癌的疾患／抑圧・完璧・自己コントロール
SYPHILIS	悪性疾患、潰瘍／逸脱・破壊・変性・絶望・自殺傾向

世界の著名ホメオパスの中には、もっと多くのマヤズムの存在を提唱している方もいますが、上記 5 大マヤズムは世界共通的なものです。

これまで学んだレメディが上記のいずれのエネルギー傾向に近いかを考えてみて下さい。今後レメディを学んだ際、同じように考えるとレメディ理解がより進むと思います。

(以上)